

## 第2章

### 基本構想

「人の集う島へ」



# 1 これからの西ノ島町を考える

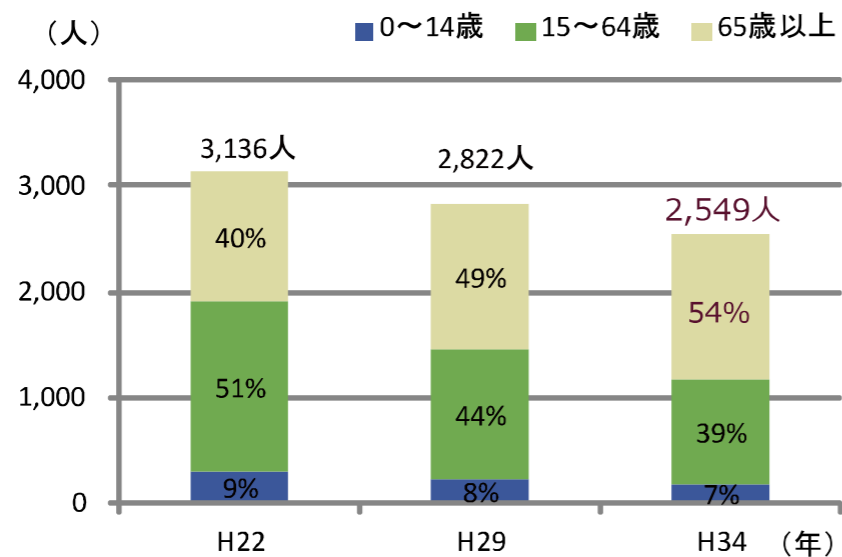
## 1 人口 2,500 人、2 人に 1 人が高齢者の時代へ

本町の人口は、昭和 25 年の 7,463 人をピークに減少を続けています。近年の動向をみると、およそ 57 人/年のペースで人口が減少しています。

この状況で推移すれば、平成 34 年に本町の人口は 2,500 人台、高齢化率は 54% に達することが予測されます。これは町民の 2 人に 1 人が高齢者の状態で、産業・福祉・医療・文化等、あらゆる場面での担い手不足が深刻化し、ひいては行政サービスの維持、集落の存続さえも危ぶまれる状況となります。

$$\begin{array}{rcl}
 \text{生まれてくる方} & + & \text{移住してくる方} \\
 18 \text{ 人/年} & + & 131 \text{ 人/年} \\
 \hline
 & = & +149 \\
 & & -57 \text{ 人/年} \\
 \\
 \text{亡くなられる方} & + & \text{島を離れる方} \\
 63 \text{ 人/年} & + & 143 \text{ 人/年} \\
 \hline
 & = & -206
 \end{array}$$

注：島根県統計に基づき、平成 19～23 年における出生者数・転入者数・死亡者数・転出者数の平均値を算出



注：国立社会保障・人口問題研究所発表の予測値より算定。ただし、H22 は国勢調査結果より引用。

## 2 人の集う島へ

このような状況の中、これからの西ノ島町はどうあるべきか？

議論を行うなかで見えてきたのは、「人の力」の大切さです。町を維持していくためには何よりも人の力が必要です。

しかし、今ある力だけに頼ってはいその力もいつかは疲れ果ててしまいます。西ノ島町には、もっと多くの「人の力」が必要です。

だからこそ、これからの目指す姿を**人の集う島へ**に決めました。

## 3 私たちがすべきこと

「人の集う島」とは、島内に住む人が「住み続けたい！」と思い、島外に住む人が「行ってみたい！」と思う島のことです。人の集う島には、そう思ってもらえるだけの「魅力」があるはずです。

「人の集う島」へ近づくために私たちがすべきことは、このような思いが相手の心の中に自然と芽生えるよう、**本町が持つ魅力を活かした暮らしを営み、その魅力を島内外へ伝えるとともに、その取組を支える基盤を整える**ことです。

## 4 西ノ島町が持つ「魅力」とその活かし方

では、西ノ島町がもつ「魅力」とはどのようなものなのでしょうか？

美しい自然がもたらす雄大な景観、食べ物、文化。高齢化が進む中、元気なお年寄りがたくさんいること。小さな島だからこそ顔の見える安心感。やることは違えど、西ノ島町を良くするためにがんばるたくさんの方々。

アンケート結果等から見えてきた「西ノ島町の魅力」とは、これら**豊かで多様な人的資源（ひと）・自然資源（しぜん）**でした。

私たちは、これらの魅力を活かす方策として、**資源を活かして働く、助け合い健やかに暮らす、自然とともに暮らす**の3つを掲げました。

## 2 島の魅力を活かす3つの方策

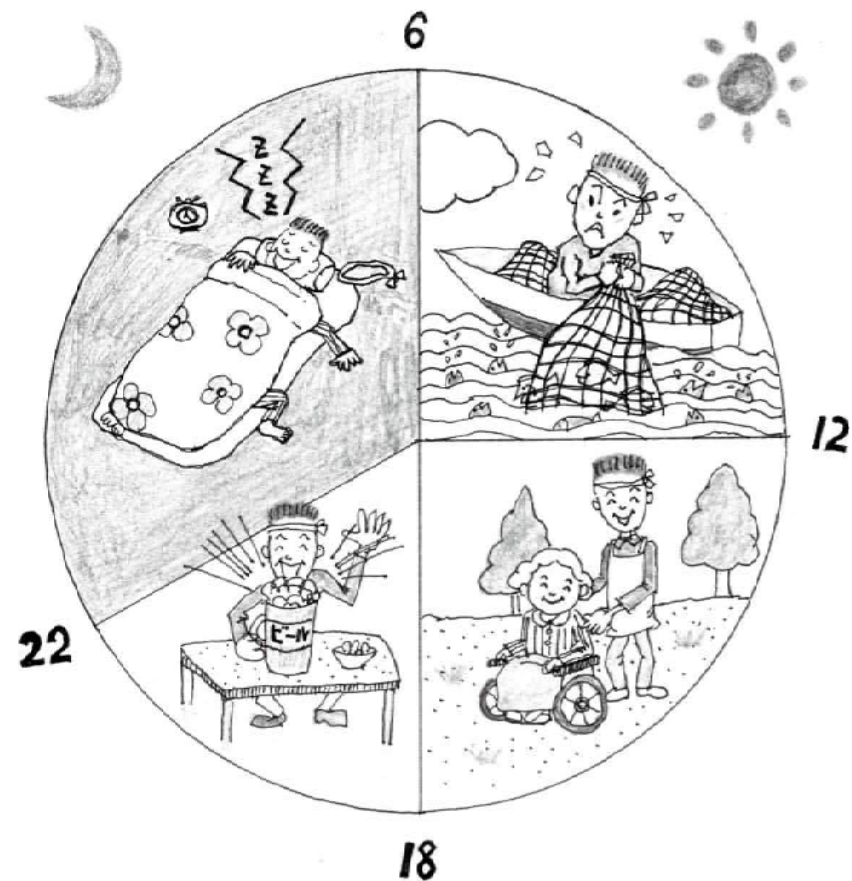
### 1 資源を活かして働く

近年、「会社に勤める」といった働き方から、半農半X等、「必要な時に必要な仕事をする」、「地域資源を活かした仕事をする」といった働き方に対する模索が全国で始まっています。

一昔前まで、西ノ島町では多くの方が農業・漁業・商業等を兼業で営んでいました。それこそが今、関心の集まっている働き方といえます。

一昔前の暮らしに戻る必要はありません。インターネット・流通・エネルギー等、現代の利便性をフルに活用しながら、西ノ島町ならではの働き方を考える。大金持ちにはなれないかもしれませんが、島で豊かに生きていく方法がきっとあるはずです。

**私たちは、資源を活かしながら、西ノ島町らしい働き方を追求していきます。**



用語解説

半農半X(はんのうはんえっくす)

### 2 助け合い健やかに暮らす

進学、就職、子育て、老後の暮らし。長い人生、その時その時の「つらいこと・困ったこと」があります。

そんな時、近くに助けってくれる人がいるかどうかは、健康なところと身体を保つ上での大事なポイントです。お年寄りが多いことは、経験豊富な「人生の先輩」が多いことに他なりません。

西ノ島町には、今住んでいる3,000人それぞれの知恵と技術があります。この人的資源こそ、西ノ島町の活力。その力が十分に発揮されるためには、皆が心身ともに健やかであることが何よりも大切です。

**私たちは、助け合いながら、心身ともに健康に暮らせる取組を追求していきます。**



### 3 自然とともに暮らす

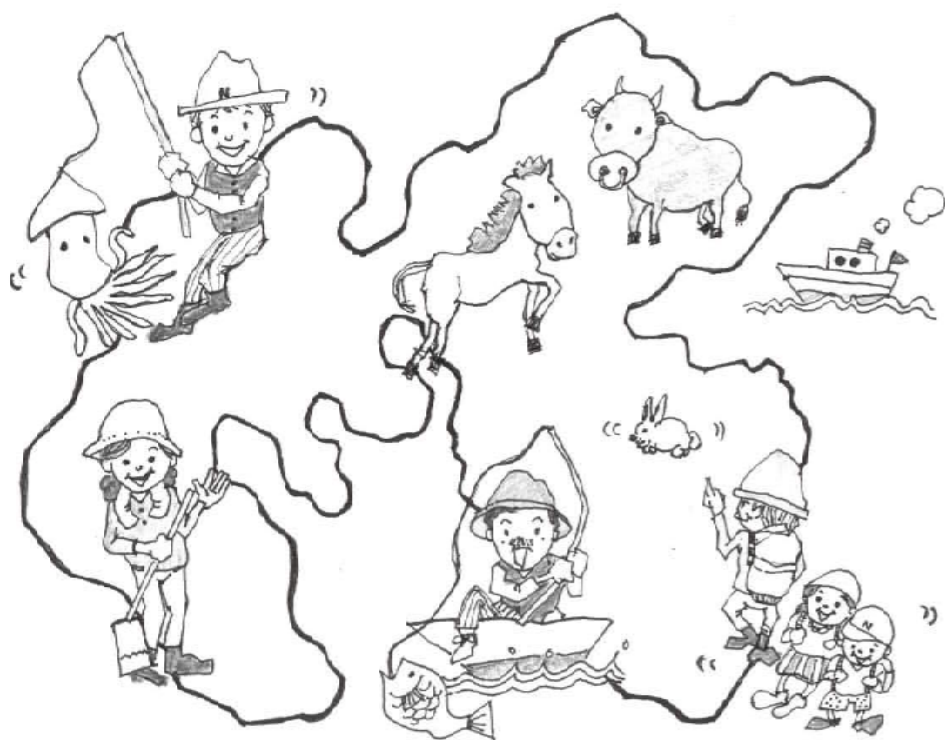
澄み切った海、おいしい魚介類、雄大な景観、四季折々に咲く花、たくさんの鳥の鳴き声。

西ノ島町には、豊かで美しい自然がたくさんあります。本町の産業や文化は、この豊かな自然によって育まれてきました。

西ノ島町を訪れる多くの方は、この豊かな自然に最も魅力を感じています。そして町民も、この自然を最も誇りに思っています。

この自然資源を、豊かで美しいままに次世代へ継承していくこと。それは、現代を生きる私たちに課せられた重要な使命です。

**私たちは、自然とともに暮らしながら、美しい自然を守り活かす取組を追求していきます。**



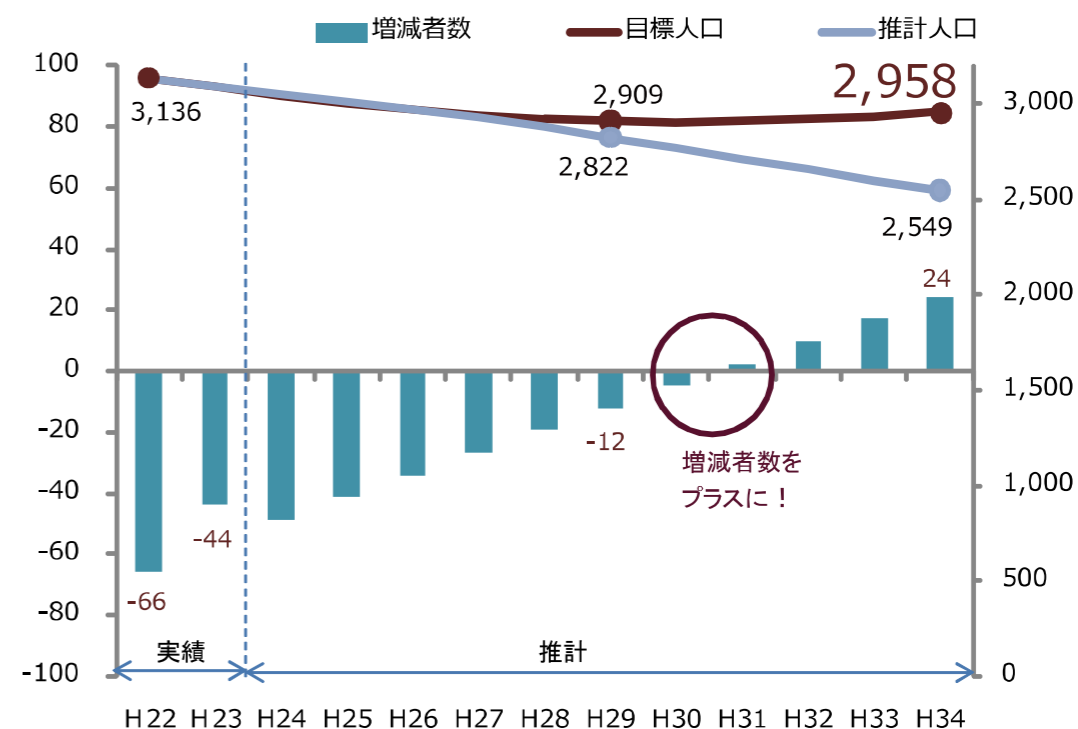
## 3 Keep3000!

人口が毎年 50 人余り減少する中、現在の人口を維持することは容易なことではありません。しかし、まちを維持していく上でその達成は不可欠です。

西ノ島町の魅力を活かし、伝え、支える取組を通して、一人でも多くの方に島へ移住してもらい、一人でも多くの方に島へ残ってもらう。そして、一人でも多くの子どもを育ててもらおう。その小さな積み重ねが、人口維持に向けた大きな力になります。

10 年後に現状人口を維持するためには、生まれる方・移住してくる方の数を現状比で +30%、亡くなる方・島を離れる方の数を -30% にする必要があります。これを達成することができれば、平成 31 年には増減者数がプラスに転じ、人口減少は止まります。

**キープ 3000。これが未来の西ノ島町を支える合言葉です。**



注：p7 で算定した出生者数・転入者数・死亡者数・転出者数の平均値を活用し、平成 34 年に現状人口を維持する場合の人口動態を解析した。なお、解析にあたり、死亡者数は一定とした。



1 資源を活かして働く

★基幹プロジェクト

- ・特産品開発プロジェクト-----P.14
- ・ビジネスプラン応援プロジェクト--P.15
- ・農産物地産地消プロジェクト-----P.16

★掲載分野



2 助け合い健やかに暮らす

★基幹プロジェクト

- ・育てたい！プロジェクト-----P.17
- ・全町一丸！高齢者福祉充実プロジェクト--P.18
- ・ちょっと聞いてよ！プロジェクト-----P.19
- ・地域の力結集プロジェクト-----P.20

★掲載分野



3 自然とともに暮らす

★基幹プロジェクト

- ・エネルギーの自立化推進プロジェクト--P.21
- ・地域連携美化活動プロジェクト-----P.22

★掲載分野



島の魅力を活かす

島の魅力を伝える



4 島外へ伝える

★基幹プロジェクト

- ・西ノ島町を伝える！プロジェクト-----P.23
- ・「行ってみたい！また会いたい！」プロジェクト--P.24

★掲載分野

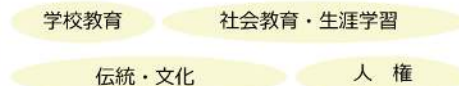


5 島内で受け継ぐ

★基幹プロジェクト

- ・ジオパーク等と連携したふるさと教育プロジェクト--P.25
- ・地域文化伝承プロジェクト-----P.26

★掲載分野



島の魅力を支える

★基幹プロジェクト

- ・島の防災力強化プロジェクト----P.27
- ・高度情報化推進プロジェクト----P.28
- ・遊休施設掘り起しプロジェクト--P.29

★掲載分野



人の集う島へ

Keep 3000!

— 第5次西ノ島町総合振興計画 —

6 基盤をつくる